

日本福祉大学COEプログラム
Working Paper Series, WP-2007-03-J

児童養護施設入所児童のエスノグラフィ
社会的排除のリスク克服と困難性のメカニズム

2007年12月27日

谷口 由希子

谷口由希子
日本福祉大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程
nfu-coe@nihonfukushi-u.jp

児童養護施設入所児童のエスノグラフィ

社会的排除のリスク克服と困難性のメカニズム

COE 研究員 谷口 由希子

(大学院博士後期課程)

dh050065@n-fukushi.ac.jp

本稿の構成

1. 子どもの「社会的排除」という問題
2. 本研究における概念と分析モデル
3. 青春学園における排除の克服と困難性のメカニズム
4. 制度からの排除
5. 結論と今後の課題

キーワード

社会的排除、貧困の再生産、リスク克服、児童養護施設

要旨

本研究は、子どもの貧困・社会的排除が将来へのリスク因子となり、再生産されていることを問題視しており、「再生産を克服するためにはどうすれば良いのか？」というリサーチ・クエスションにはじまる。児童養護施設入所児童のエスノグラフィをとおして、子どもたちが制度の中で社会的排除のリスクを克服していく様相と困難性のメカニズムを明らかにする。

研究の結果、児童は施設への【入所】によって排除を克服する方向に向かうものの、その途中でむかえる【退所】によって再び社会的に排除された状況に陥ることが明らかになった。施設内における排除克服の要素として、「かかわり」による社会化がみられた。とりわけ、子どもどうしによるインフォーマルな「かかわり」は、他者との繰り返しの対話によって社会関係が築き上げられ、本人の生き方に直接影響を与える排除克服のプロセスであることが明らかになった。その一方で、排除克服の困難性のメカニズムとして 学校からの排除、 集団養護による「平等」の重視の問題があり、結果として児童は制度から排除されていく様相が明らかになった。